

【草花の部屋】

カラー (サトイモ科オランダカイウ属 Zantedeschia)

和名：オランダカイウ (和蘭海芋) **別名**： **英名**： Calla lily, Arum lily

オモダカ目 球根植物 **原産地**：南アフリカ

花言葉：乙女のしとやかさ、清浄 **花色**：赤色、白色、桃、黄色、オレンジ、紫など

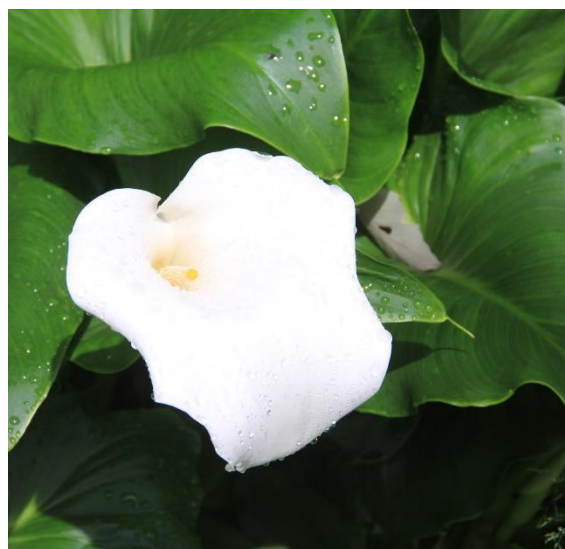


← 写真-1 カラー(湿地性)

撮影日：2023年5月30日

撮影場所：米原市醒ヶ井養鱒場にて

撮影者：M さん



↑ 写真-2 カラーの花(湿地性)

撮影日：2023年5月30日

撮影場所：米原市醒ヶ井養鱒場にて

撮影者：M さん



← 写真-3 カラーの花(畑地性・鉢植え)

撮影日：2005年6月16日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

写真1、2は養鱒場の養魚池岸辺、場内水路の中で見かけました。

原産地では約6～8種類の原種が自生しているそうです。湿地を好む「湿地性」と乾燥気味を好む「畑地性」の2種

類があるのが大きな特徴で、購入時には確認が必要だそうです。日本の園芸業界では、育てやすい「畑地性」が多く流通しているようで、シンプルですつとした美しいフォルムが印象的な植物で、切り花のブーケやアレンジメントによく使用されているそうです。切り花として出回ることが多い印象ですが、庭植えや鉢植えで育てることも出来ます。冬は地上部が枯れ、休眠した状態で越冬します。春になると再び芽吹いて初夏に開花します。

花に見える部分は花ではなく、仏炎苞(ブツエンハウ)と言われる萼(がく)が変化したものです。中心部の黄色い部分が花の集合体となります。この苞の厚さや巻きの深さは品種によって異なります。咲き進むにつれて苞のツヤが増すという特徴を持つ品種もあるそうです。仏炎苞の色は赤、オレンジ、黄、ピンク、白、紫など様々で、バイカラーの品種もあるそうです。

*湿地性カラー

- ・水辺などの湿り気のある場所を好むカラーで、耐暑性がありますが乾燥を嫌うので、夏の乾燥がひどい時期は注意が必要だそうです。
- ・花が大きくて草丈は約 1m、葉の形状はハート形が多く流通していますが、花色は流通している品種の大半が白色だそうです。また畑地性と比べると、花びらの先が横に広く開いている特徴があります。

*畑地性カラー

- ・水はけのよい土壌を好むカラーで、湿地性カラーよりも栽培しやすいため、園芸業界でカラーというと、大体は畑地性カラーを指すそうです。乾燥に強く耐寒性がありますが、その分高温多湿に弱いので、水やりの際はやり過ぎに注意が必要だそうです。
- ・生育期と休眠期がはっきりしていて、春から夏に成長、開花し、秋以降は葉が銹枯れて休眠します。球根を掘り上げて春まで貯蔵することもできます。すらりとした草姿で、葉形は三角形のやじり形から細長い銹形まであり、花の形(苞の形)も細長いものから広い漏斗状まで幅があり、葉の観賞価値が高く、観葉植物としても扱われているそうです。